

国を救ったヨセフの知恵

7年間の豊作の後には7年間の大凶作が来ることを知ったヨセフは、当時のエジプト王、つまりパロ(ファラオ)にアドバイスをしました。「王様、豊作の間に賢い指導者たちを任命して、国の収穫の5分の1を集めさせ、凶作に備えて穀物を蓄えて下さい。そうすれば、エジプトの国は飢饉で滅びることがないでしょう。」

さて、この提言をした時、ヨセフは囚人の身でした。12人兄弟の末っ子であった彼は17才の時、兄たちの悪巧みによって奴隷として売られ、エジプトに連れて行かれたのです。幸い、良い主人に買われたヨセフは、その忠実さと聡明さゆえに信望を得、多くの責任を任されるようになりました。ある日、ヨセフは計略にはめられ、無実ながら投獄されたのですが、牢の中で、ヨセフは夢の解き明かしができる人物だという評判が立ちました。

その頃、ファラオは不可思議な夢を見て、戸惑い悩んでいます。王は何人も魔術師を呼んで解き明かしを求めたものの、まともに答えられる者はいません。そんな時、ヨセフのこと耳にした王は、彼を呼び出しました。ヨセフは、必死に祈って神から解き明かしを受け取り、それが、7年の豊作と7年の大飢饉についての啓示だったのです。

王はその解き明かしと神の知恵に敬服し、ヨセフを食料備蓄プロジェクトの責任者としました。さらに、ヨセフを「聡明で神とのつながりのある人物」と見た王は、彼を総理大臣にあたる地位につけ、自分の部下や国民にも彼を敬うようにと命じたのでした。

その後、どうなったのでしょうか？ エジプトは予見された通り、大飢饉に見舞われましたが、ヨセフのアドバイスのおかげで国は安定を保ち、飢饉に苦しむ近隣の国も援助できるほどでした。

この、映画化もされた有名な話は、旧約聖書の創世記37～50章に詳細が記されています。聖書の中には、このように神が夢や啓示を通して将来の出来事を示されたという話が数多くあ

り、その多くは成就し、歴史学や考古学の観点からも裏付けられつつあります。このように過去の預言が成就したことを知るなら、未来についての預言も何らかの形で成就すると信じるのがより簡単になることでしょう。

神が預言を与えられるのは、人が未来に備え、正しい心構えを持つよう望まれているからです。個人でも、国でも、将来の夢も計画もなしにやっつけようとするなら、成功することも、豊かな人生を送ることもできないでしょう。だから神は、未来の一部を見せることで、人がその情報をもとに正しい計画を立て、時間や資金、才能を賢く投資するのを助けようとされるのです。ですから、神の啓示を信じるのは、愚かなことではなく、むしろ賢い行動の最初のステップと言えるでしょう。

聖書の箴言1章7節には、「主を恐れることは知恵のはじめである」とあります。「主を恐れる」とは、神を敬い、神への敬信的な恐れを持つことです。それは、神の知恵に対する信頼であり、聖書はそのような心こそ「知恵の始まり」だと教えているわけです。

現代の私たちには、社会的にも個人的にも問題が山積みされおり、それを解決していくには、まさに神からの知恵が必要ですが、真に神に頼るなら、神は良きアドバイスを下さることでしょう。



Vol.7-3

3

アクティベート ジャパン <http://www.activate.jp> activate@activate.jp

この記事は「アクティベート誌」Vol.7 Issue 3からの抜粋です。このような読み物をさらにご希望の方はご連絡下さい。尚、無断で転載することを禁じます。

© 2009 Aurora Production, Ltd. All Rights Reserved